

問1 佐賀県で発見された、弥生時代の大規模な環濠集落の跡として知られる遺跡について述べた文として、適切なものはどれですか。（2016年 岐阜公立入試 類似）

1. 物見やぐらや竪穴住居が復元されており、銅鏡や銅鐸などの青銅器が出土している。
2. 縄文時代の集落跡であり、大型の竪穴住居やクリの栽培跡が確認されている。
3. 相沢忠洋によって発見された、日本に旧石器時代が存在したことを証明する遺跡である。
4. 戦国時代から江戸時代にかけて銀の採掘が行われた、世界遺産に登録されている遺跡である

問2 中国の歴史書である『後漢書』東夷伝には、西暦57年に倭の奴国が朝貢した際、光武帝が印綬（印とひも）を授けたという記述があります。この記述を裏付ける資料として、福岡県の志賀島で発見された「漢委奴国王」の金印について説明した文として正しいものはどれですか。（2024年 佐賀公立入試 類似）

1. 正方形の台座に蛇のような形のつまみがついており、江戸時代に偶然発見された。
2. 円形の形状に鏡のような光沢があり、邪馬台国の卑弥呼が魏から授かったものである。
3. 木簡と呼ばれる細長い木の板に墨で刻まれており、当時の税制度を詳しく示している。
4. 聖徳太子が隋の皇帝に死てた手紙の内容が、金印の表面に細かく刻まれている。

問3 古代の東アジアにおいて、倭（日本）などの周辺諸国の首長や国王が、中国の皇帝に使者を送り、貢物を捧げた外交形式を何と呼びますか。この形式において、使者は中国の皇帝からその地域の支配権を認められ、称号や金印を授かることで、自らの権威を高めようとした。（2024年 宮崎公立入試 類似）

1. 朝貢
2. 通商
3. 冊封
4. 民間貿易

問4 3世紀頃の倭国において、邪馬台国を中心に30ほどの国々をまとめ、中国の魏から「親魏倭王」の称号や金印を授けられた人物は誰ですか。（2020年 埼玉公立入試 類似）

1. 卑弥呼
2. 推古天皇
3. 持統天皇
4. 北条政子

問5 1世紀頃の東アジアにおいて、中国の皇帝が周辺国の支配者に対して「みつぎ物」の見返りとして「称号」や「印」などを与える国際秩序がありました。倭の王が中国へ使いを送った歴史的背景や目的として最も適切な説明はどれですか。（2019年 長野県公立入試 類似）

1. 中国の皇帝に臣下として認められることで、自らの支配者としての地位を国内や周辺に示そうとした。
2. 中国と対等な立場で外交関係を築き、軍事的な同盟を結ぶことで領土を拡大しようとした。
3. 朝鮮半島北部の小国として、中国の強力な武力による直接支配から逃れるための許可を求めた。
4. 仏教などの新しい宗教を中国から正式に導入し、国を治めるための思想として活用しようとした。

問6 弥生時代の吉野ヶ里遺跡などに見られる、高い木材を組み上げ周囲に柵を張り巡らせた「物見やぐら」が作られた背景として、当時の社会状況を正しく説明しているものはどれですか。（2016年 岐阜公立入試 類似）

1. 稲作の普及により土地や水をめぐる争いが増え、集落を守るための防御機能が必要になったため。
2. 大陸から伝わった仏教の儀式を行うため、天に近い高い場所で祈りを捧げる必要があったため。
3. 高床倉庫に保管した穀物がネズミの被害に遭わないよう、高い場所で常に監視を行うため。
4. 天皇を中心とした中央集権体制が確立し、地方の豪族がその権力を誇示するために建設したため。

問7 弥生時代の遺跡からは、大陸から伝わった銅剣や銅矛などの青銅器が発見されることがあります。これらの青銅器の使われ方の特徴や変化について述べた文として、最も適切なものはどれですか。（2017年 岡山公立入試 類似）

1. 当初は武器として伝わったが、日本では次第に豊作を祈る祭祀や儀式のための宝物として使われるようになった。
2. 弥生時代には鉄器がまだ伝わっていなかったため、青銅器が唯一の金属製武器として実戦で使われ続けた。
3. 青銅器は非常に硬くて丈夫であったため、収穫した稲を加工するための農業用工具として普及した。
4. 各地の王が富を蓄えるための貨幣として使われ、和同開珎が作られるまで主要な流通手段となった。

問8 1世紀半ばに日本の「奴国」の王が中国へ使者を送り、皇帝から金印を授かったという出来事が記されている、当時の中国の歴史書として正しいものを答えなさい。（2016年 大阪公立入試 類似）

1. 後漢書
2. 魏志
3. 史記
4. 日本書紀

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 1</b> 物見やぐらや竪穴住居が復元されており、銅鏡や銅鐸などの青銅器が出土している。	吉野ヶ里遺跡は佐賀県に位置する弥生時代の代表的な遺跡です。この遺跡では、防御のための堀を巡らせた環濠集落の跡が確認されており、復元された物見やぐらや、祭祀に使われたと考えられる銅鐸などの青銅器が出土しているのが特徴です。選択肢にある縄文時代の集落は三内丸山遺跡、旧石器時代の遺跡は岩宿遺跡、銀山は石見銀山遺跡を指しています。
問2	<b>答え 1</b> 正方形の台座に蛇のような形のつまみがついており、江戸時代に偶然発見された。	福岡県の志賀島で発見された金印は、一辺が約2.3cmの正方形の台座に、蛇がとぐろを巻いたような形のつまみ（蛇鈕）がついています。これは当時の中国（後漢）が、周辺地域の支配者に授けた印の形式と一致しており、1世紀の日本と中国の交流を証明する貴重な物証となっています。
問3	<b>答え 1</b> 朝貢	中国を中心とした国際秩序の中で、周辺諸国の君主が中国の皇帝に対して臣下の礼をとり、貢物を捧げる行為を指します。これにより、周辺諸国の君主は中国皇帝から国内の支配権を正当化する称号（官職や王号）を得ることができました。設問にある「称号や金印を授かること」は、この外交関係に伴う重要な政治的プロセスです。
問4	<b>答え 1</b> 卑弥呼	3世紀の日本について記した中国の歴史書『魏志倭人伝』によると、卑弥呼という女王が邪馬台国を統治していたとされています。彼女は魏の皇帝から「親魏倭王」という称号や金印、多数の銅鏡などを授かり、自らの権威を国内に示すとともに、外交的な地位を確立しました。
問5	<b>答え 1</b> 中国の皇帝に臣下として認められることで、自らの支配者としての地位を国内や周辺に示そうとした。	当時の倭の王は、東アジアで圧倒的な権威を持っていた中国の皇帝に「朝貢」し、その臣下として認められる（冊封を受ける）ことで、自らの支配の正当性を強化しようとした。これは対等な外交ではなく、中国を中心とした主従関係に基づく国際秩序の中に組み込まれることを意味しています。
問6	<b>答え 1</b> 稲作の普及により土地や水をめぐり争いが増え、集落を守るための防衛機能が必要になったため。	弥生時代には稲作が本格化し、蓄えられた食料や、稲作に適した土地・水をめぐり集落間の争い（戦争）が発生するようになりました。吉野ヶ里遺跡で見られる深い堀（環濠）や、高い場所から敵の侵入をいち早く察知するための物見やぐらは、集落を外敵から守るための軍事的な役割を果たしていました。仏教の伝来や中央集権体制の確立は、のちの飛鳥時代以降の出来事です。
問7	<b>答え 1</b> 当初は武器として伝わったが、日本では次第に豊作を祈る祭祀や儀式のための宝物として使われるようになった。	弥生時代には青銅器と鉄器がほぼ同時に伝わりました。実用的な武器や工具としては硬い鉄器が主に使われたのに対し、青銅器（銅剣・銅矛・銅鐸など）は、形が大型化・平坦化していくとともに、ムラの祭祀や祭りの際に権威を示したり神を祀ったりするための道具（祭器）としての性格が強めていきました。
問8	<b>答え 1</b> 後漢書	西暦57年に倭の奴国の王が使者を送り、光武帝から金印を授かった事実は『後漢書』東夷伝に記されています。江戸時代に志賀島（福岡県）で発見された「漢委奴国王」の金印は、この記述を裏付ける重要な史料となりました。3世紀の卑弥呼について記された『魏志』倭人伝とは時代が異なるため、区別が必要です。